

| 科目名                  | 成人看護学特講 I   |   |    | 分野・必選別・単位数   | 専門科目<br>(成人看護学) | 選択必修 | 2単位 |
|----------------------|---|---|----|--|-----------------|------|-----|
| 担当教員                 | ◎教授 南川雅子  |   |    |  |                 |      |     |
| 課程                   | 博士前期  | 配当年次  | 1年 | 配当学期   | 前期              | 授業方法 | 講義  |
| 授業の概要                | 健康障害を抱えた人々とその家族の反応や療養行動特性、生活に及ぼす影響に関する理解を深め、望ましい看護の在り方について考察する。   |   |    |  |                 |      |     |
| 授業の到達目標              | 1. 臨床人類学的視点から、慢性病を抱える患者のあり様を説明することができる。<br>2. 慢性病を抱える患者の多面性を踏まえた望ましい看護の在り方を説明することができる。  |   |    |  |                 |      |     |
| 授業計画                 | 回数  | 担当者   |    | 行動目標   |                 |      |     |
|                      | 1   | 南川 雅子   | 教授 | 科目概説<br>本科目の概要を説明できる。<br>今後の授業計画を立案できる。  |                 |      |     |
|                      | 2   | 南川 雅子   | 教授 | 1.「症状と障害の意味(1章)」を要約し、「病い」、「疾患」、「病気」の意味に関する著者の考えを説明できる。<br>2.文献要約の内容を踏まえて、「病い」に関する自らの考えを述べることができる。                              |                 |      |     |
|                      | 3   | 南川 雅子   | 教授 | 1.「病いの個人的意味と社会的意味(2章)」を要約し、慢性病をもつ患者を理解することに関する著者の考えを説明できる。<br>2.文献要約の内容を踏まえて、慢性病をもつ患者の理解に関する自らの考えを述べることができる。                   |                 |      |     |
|                      | 4   | 南川 雅子   | 教授 | 1.「痛みの脆弱性と脆弱性の痛み(3章)」を要約し、慢性の痛みに関する著者の考えを説明できる。<br>2.文献要約の内容を踏まえて、慢性の痛みに関する自らの考えを述べることができる。                                    |                 |      |     |
|                      | 5   | 南川 雅子   | 教授 | 1.「生きることの痛み(4章)」を要約し、痛みが人の人生に及ぼす影響に関する著者の考えを説明できる。<br>2.文献要約の内容を踏まえて、痛みと人生の関係について自らの考えを述べることができる。                              |                 |      |     |
|                      | 6   | 南川 雅子   | 教授 | 1.「慢性の痛みー欲望の挫折(5章)」を要約し、人生と病いと文化の関係について著者の考えを説明できる。<br>2.文献要約の内容を踏まえて、患者の人生と病いと文化の関係について自らの考えを述べることができる。                       |                 |      |     |
|                      | 7   | 南川 雅子   | 教授 | 1.「神経衰弱症ーアメリカと中国における衰弱と疲弊(6章)」を要約し、文化の違いによる病いのとらえ方の違いに関する著者の考えを説明できる。<br>2.文献要約の内容を踏まえて、文化の違いによる病いのとらえ方の違いについて自らの考えを述べることができる。 |                 |      |     |
|                      | 8   | 南川 雅子   | 教授 | 1.「慢性の病いをもつ患者のケアにおける相反する説明モデル(7章)」を要約し、患者・家族の説明モデルと治療者の説明モデルの違いに関する著者の考えを説明できる。<br>2.文献要約の内容を踏まえて、説明モデルの違いについて自らの考えを述べることができる。 |                 |      |     |
|                      | 9   | 南川 雅子   | 教授 | 1.「大いなる願望と勝利ー慢性の病いへの対処(8章)」を要約し、慢性病にうまく対処することに関する著者の考えを説明できる。<br>2.文献要約の内容を踏まえて、慢性病への患者自身の対処について自らの考えを述べることができる。               |                 |      |     |
|                      | 10  | 南川 雅子   | 教授 | 1.「死にいたる病い(9章)」を要約し、死を迎える患者の様相について著者の考えを説明できる。<br>2.文献要約の内容を踏まえて、患者の死に関する自らの考えを述べることができる。                                      |                 |      |     |
|                      | 11  | 南川 雅子   | 教授 | 1.「病いのスティグマと羞恥心(10章)」を要約し、病いによるスティグマに関する著者の考えを説明できる。<br>2.文献要約の内容を踏まえて、病いによるスティグマについて自らの考えを述べることができる。                          |                 |      |     |
|                      | 12  | 南川 雅子   | 教授 | 1.「慢性であることの社会的文脈(11章)」を要約し、病いの意味の構造に関する著者の考えを説明できる。<br>2.文献要約の内容を踏まえて、病いの意味の構造について自らの考えを述べることができる。                             |                 |      |     |
|                      | 13  | 南川 雅子   | 教授 | 1.「疾患を創り出すことー虚偽性の病い(12章)」を要約し、虚偽性の病いに関する著者の考えを説明できる。<br>2.文献要約の内容を踏まえて、虚偽性の病いについて自らの考えを述べることができる。                              |                 |      |     |
|                      | 14  | 南川 雅子   | 教授 | 1.「心気症ーアイロニックな病い(13章)」を要約し、心気症に関する著者の考えを説明できる。<br>2.文献要約の内容を踏まえて、心気症について自らの考えを述べることができる。                                       |                 |      |     |
|                      | 15  | 南川 雅子   | 教授 | まとめ<br>慢性病を抱える患者の多面性を踏まえた望ましい看護の在り方について、自らの考えを述べるることができる。  |                 |      |     |
| 事前事後学修の内容およびそれに必要な時間 | 【事前学修】  | 指定したテキストの次回授業部分を事前に読んでおくこと。<br>回次の授業内容を予習し、用語の意味等を理解しておくこと。 |    |  |                 |      |     |
|                      | 【事後学修】  | 授業中の疑問点をまとめ、教科書等を利用し、次回授業までに解決しておくこと。                       |    |  |                 |      |     |
|                      | 【必要時間】  | 当該期間に30時間以上の予復習が必要。   |    |  |                 |      |     |
| 教科書                  | Kleinman A.(1988): The Illness Narratives: Suffering, Healing and the Human Condition. Basic Books, Inc., New York/江口重幸, 五木田紳, 上野豪志訳(1996): 病いの語り 慢性の病いをめぐる臨床人類学, 誠信書房。 |   |    |  |                 |      |     |
| 参考書                  |   |   |    |  |                 |      |     |
| 成績評価の方法および基準         | プレゼンテーションと質疑応答50%、課題レポート50%により評価する。   |   |    |  |                 |      |     |
| その他履修上の注意事項          | 試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。<br>カリキュラムマップのDP2が、この科目と本専攻の学位授与方針との関連を示している。  |   |    |  |                 |      |     |

| 科目名                  | 成人看護学特講 I   |   |                      | 分野・必選別・単位数                          | 専門科目<br>(成人看護学) | 選択必修 | 2単位 |
|----------------------|---|---|----------------------|-------------------------------------|-----------------|------|-----|
| 担当教員                 | ◎教授 林さとみ  |   |                      |                                     |                 |      |     |
| 課程                   | 博士前期  | 配当年次  | 1年                   | 配当学期                                | 前期              | 授業方法 | 講義  |
| 授業の概要                | 看護における知識構造、看護学におけるメタパラダイムの構成要素、既存の主要なパラダイム、概念モデルについて、その詳細を検討する。概念「脆弱性」について検討し、成人期の多様な健康問題がもたらす身体的、精神的、社会的な脆弱性と、その脆弱性に包含される看護への関連性を検討する。   |   |                      |                                     |                 |      |     |
| 授業の到達目標              | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護における知識構造、看護学におけるメタパラダイムの構成要素を説明できる。</li> <li>2. 看護における既存の主要なパラダイムを説明できる。</li> <li>3. 看護における既存の主要な概念モデルを説明できる。</li> <li>4. 概念「脆弱性」について論じることができる。</li> <li>5. 健康問題や疾病がもたらす身体的、精神的、社会的な脆弱性を明らかにし、その脆弱性に包含される看護への関連性を明確にできる。</li> </ol> |   |                      |                                     |                 |      |     |
| 授業計画                 | 回数  | 担当者   |                      | 行動目標                                |                 |      |     |
|                      | 1   | 林 さとみ   | 教授                   | 科目概説を理解し、説明できる。                     |                 |      |     |
|                      | 2   | 林 さとみ   | 教授                   | 看護における知識構造について説明できる。                |                 |      |     |
|                      | 3   | 林 さとみ   | 教授                   | 看護学におけるメタパラダイムについて説明できる。            |                 |      |     |
|                      | 4   | 林 さとみ   | 教授                   | 看護における既存の主要なパラダイムについて説明できる。         |                 |      |     |
|                      | 5   | 林 さとみ   | 教授                   | 看護における既存の主要なパラダイムについて説明できる。         |                 |      |     |
|                      | 6   | 林 さとみ   | 教授                   | 看護における既存の主要な概念モデルについて説明できる。         |                 |      |     |
|                      | 7   | 林 さとみ   | 教授                   | 看護における既存の主要な概念モデルについて説明できる。         |                 |      |     |
|                      | 8   | 林 さとみ   | 教授                   | 概念「脆弱性」の検討を行い、その特性を説明できる。           |                 |      |     |
|                      | 9   | 林 さとみ   | 教授                   | 概念「脆弱性」の検討を行い、その構成要素を説明できる。         |                 |      |     |
|                      | 10  | 林 さとみ   | 教授                   | 看護における既存の主要な概念モデルの検討を行い、その特性を説明できる。 |                 |      |     |
|                      | 11  | 林 さとみ   | 教授                   | 看護における既存の主要な概念モデルの検討を行い、その特性を説明できる。 |                 |      |     |
|                      | 12  | 林 さとみ   | 教授                   | 看護における既存の主要な概念モデルの検討を行い、その特性を説明できる。 |                 |      |     |
|                      | 13  | 林 さとみ   | 教授                   | 「脆弱性」と看護の関連性の検討を行い、その特性を説明できる。      |                 |      |     |
|                      | 14  | 林 さとみ   | 教授                   | 「脆弱性」と看護の関連性の検討を行い、その特性を説明できる。      |                 |      |     |
| 15                   | 林 さとみ   | 教授  | まとめ<br>講義の振り返りと習熟度確認 |                                     |                 |      |     |
| 事前事後学修の内容およびそれに必要な時間 | 【事前学修】  | 指定したテキストの次回授業部分を事前に読んでおくこと。<br>次回の授業内容を予習し、用語の意味等を理解しておくこと。 |                      |                                     |                 |      |     |
|                      | 【事後学修】  | 授業中の疑問点をまとめ、教科書等を利用し、次回授業までに解決しておくこと。                       |                      |                                     |                 |      |     |
|                      | 【必要時間】  | 当該期間に30時間以上の予復習が必要。   |                      |                                     |                 |      |     |
| 教科書                  | 必要に応じて適宜提示する。   |   |                      |                                     |                 |      |     |
| 参考書                  | 必要に応じて適宜提示する。   |   |                      |                                     |                 |      |     |
| 成績評価の方法および基準         | プレゼンテーション25%、討論への参加状況と内容25%、課題レポート50%により評価する。   |   |                      |                                     |                 |      |     |
| その他履修上の注意事項          | 試験やレポート等に対し、講義中での解説等のフィードバックを行う。<br>カリキュラムマップのDP2が、この科目と本専攻の学位授与方針との関連を示している。   |   |                      |                                     |                 |      |     |